



富士市のギネス

No.1

百メートルを超す 煙突の数が県内一



▷市内一ノツポの旭化成の煙突

富士市の景観の特徴の一つとして、煙突の多さを上げることができます。

市役所庁舎の屋上から四方を眺めると、南側には主に紅白に塗られた高い煙突、東側には比較的低い煙突がたくさん目につきます。

大気汚染防止法に基づく届け出によれば、市内の煙突の数は約310本です。この数は他市の統計がありませんので確認ができませんが、県内1・2であることは間違いありません。

市内で1番高い煙突は、旭化成工業の124mで、市内には100mを超える煙突が4本あります。この本数は県内一です。煙突を街の景観にマッチできるような工夫できたらすばらしいですね。

草笛の演奏家 石坂の古川忠義さん



古川忠義さん

熟年世代の皆さんなら一度は吹いたことのある草笛。石坂の古川忠義さん（五十六歳）は、子供のころ身につけていた草笛を二年前から本格的に始め、童謡から歌謡曲まで幅広く演奏することができま。葉は、サカキやナンテンなど身近なものならなんでも。哀愁を帯び、情緒のある音色は心が洗われる思いがします。毎日十分でも練習すれば三ヶ月ぐらいで吹けるようになるそうです。詳しくは古川さんへ ☎二二一三二七六。



川嶋富恵さん(左)と杏奈ちゃん

よい歯のコンクール 中丸の川嶋さんが市長賞

六月の歯の衛生週間に行われた母と子のよい歯のコンクールで、中丸の川嶋富恵さん・杏奈ちゃん（三歳）親子が、市長賞になりました。三歳児十人のうち六人は虫歯があるという今日、よい歯の秘訣を尋ねると、一に歯磨き、二にカルシウムをよくとる食事、三に寝る前に甘い物をとらないとのこと。特筆すべきは、親が見本を見せ、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて家族ぐるみで協力していることです。

楽寿園の谷口タカさんが 俳句展



アジサイを詠んだ作品

わずか十七文字の中に、人生や季節を歌い込む俳句は鋭い感性が要求されるものです。この俳句を、全くの寝たきりの状態の中で詠み続けているのが、谷口タカさんです。昭和五十六年から富士楽寿園での生活が始まり、まもなく八十九才です。波乱に満ちた人生を送ってこられたのに、詠む歌は素直でやさしさにあふれています。タカさんの俳句展は、七月八日まで市役所市民ホールで開かれます。



アマチュア無線一家

松本の川江さんファミリー

いつでも、どこでも人と話ができ、とても便利なアマチュア無線。松本の川江義昌さんの一家は、家族で免許を取り、交信を楽しんでいます。今回は、とてもにぎやかな川江さん一家におじゃましました。

川江さんでは、四年前にお母さんの妙子さん（富士中三年）が免許を取ったのを皮切りに、長いことパーソナル無線派だったお父さんの義昌さんが取り、ことしの春休みには、次男の隆介君（富士一小六年）と長女の悠加ちゃん（同小二年）までが取りました。

「無線を家族でやろう」と言い出しつべは、お母さん。お父さんはトラックの運転手で時間が不規則。お母さんは看護婦目指して通学中、子供たちも帰宅時間がいろいろとあつて、初めは家族の連絡用として考えていました。

「こちらはJ M 2 L F F、今から帰るから御飯の支度を頼むよ」「はい了解」という具合に夫婦の会話をしていたのですが、そのうちにいろいろな人と交信もふえ、多くの人とコミュニケーションできる楽しみも生まれました。



◁写真右から妙子さん、悠加ちゃん、隆介君、義昌さん（義昌さんは残念ながらこの日仕事で不在でした）

ですから、川江家の夕食後のだんらんには、アマチュア無線でとてもにぎやか。家族で共通の話題ができるのも魅力です。「家族のQSL（交信）カードをつくりたい」（悠加ちゃん）「外国の人と交信したい」（隆介君）「いろいろな周波数で交信したい」（徹昌君）と子供たちの夢は広がっています。